



代表取締役の山田氏

経営概要

- ◆代表者、所在地
代表取締役 山田翔也、 岐阜県下呂市
- ◆設立年
令和5年7月
- ◆経営規模
夏秋トマト1.1ha、 ホウレンソウ 0.1ha
- ◆従業員数
役員4名、正社員2名、パート・アルバイト10名（うち季節雇用7名）
- ◆事業内容
岐阜県が開発した隔離型培地耕（3S）システムによる夏秋トマト及び土耕によるホウレンソウ生産等に取り組む。

1 現状及び相談内容

山田氏は2年間下呂市の農家で研修を受けた後、平成30年に経営を開始し、地域における農業の担い手としてトマト栽培に取り組んできた。

経営者になりたいという思いがあり、家族経営からの脱却と規模拡大のために、友人と一緒に法人を設立したいと、岐阜県農業経営・就農支援センターに相談があった。

2 支援内容

岐阜県農業経営・就農支援センターと普及指導センターが連携し、法人設立を支援した。

また、人材確保・定着に向けて、専門家派遣による就業規則の策定などに関する助言を行った。

3 人材の確保・育成に資する取組

★育児・介護休暇等を含めた就業規則や安全衛生管理等の各種規程を定め、若い人に魅力ある働きやすい労働環境を実現

■一般企業と同等の就業規則等を制定

農業において適用除外とされている時間外労働と休日労働に対する割増賃金を支給し、週休2日制としている。また、育児・介護休業規程や安全衛生管理規定を定め、若い人に魅力ある働きやすい会社となることを目指している。



誰もが作業できるようトマトの草丈を調整作業する代表者

■従業員に合わせた栽培方法

土耕栽培における畝や支柱の高さを背の低い女性の手が届く位置に設定することで、作業台に立つ必要がなくなり、効率的かつ安全に作業が来ている。

■人材教育の実施

今後、夏秋トマトやホウレンソウの農場を任せられる人材に育成すべく、新規採用者向けの研修を実施している。習熟度を測定するために、チェックリストの作成に取り組むとともに、人事評価制度を導入している。



3S栽培ほ場の様子

今後の意気込み

飛騨地域で1番の農家になることを目指し、15年後には5haに規模拡大したい。農場を任せられる人材を育て、農業経営に興味のある従業員の独立支援も行いたい。

専属スタッフ所感

前職で人をマネジメントした経験や、人脈を生かした発想により、事業の拡大や新たな経営者を育成することが期待される。